

過去トラ集を使った、FMEAとDRの 上手な使い方と未然防止の活動方法

—設計留意点・故障事例・チェックシート等の道具箱「FMEA辞書」と
心配点を見逃さない「PQDR (Perfect Quality DR)」のススメ

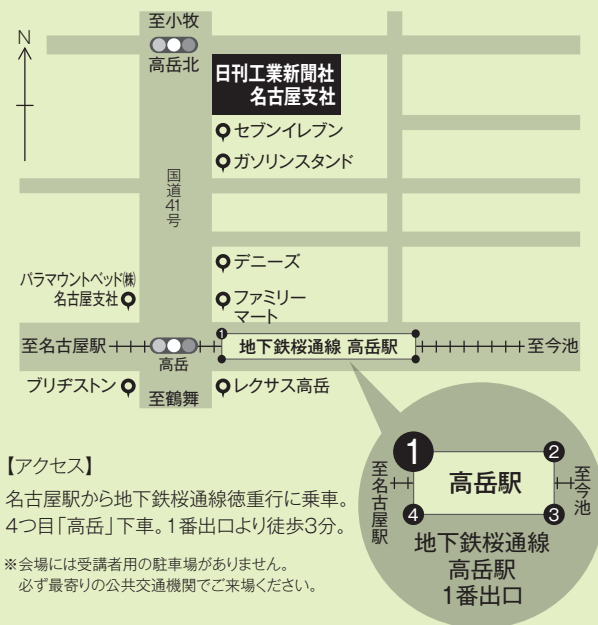
日時 2024年5月29日(水) 13:00~17:00
(12:30 受付開始)

会場 日刊工業新聞社 名古屋支社 セミナールーム 名古屋市東区泉2-21-28

受講料 39,600円 (資料含む、消費税込)

※日本金型工業会、中部プラスチック連合会の正会員の方は15%割引とさせていただきます。

日刊工業新聞社 名古屋支社 会場案内図



【アクセス】
名古屋駅から地下鉄桜通線徳重行に乗り、
4つ目「高岳」下車。1番出口より徒歩3分。

※会場には受講者用の駐車場がありません。
必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。

セミナー申込を検討中の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症に伴うセミナー開催及び対応について、弊社WEB
サイトにてご確認ください。

<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/view/3693>

受講にあたり

開催決定後、受講票並び請求書をご郵送いたします。
申込者が最少催行人数に達していない講座の場合、開催を見送りとさせていただきます。
(担当者より一週間前を目途にご連絡致します。)

お申し込み方法

ホームページ (<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>) または、
下記申込書をご記入のうえFAXにてお申し込みください。

受講料

セミナー開催日までに銀行振込にてお支払いください。
振込手数料は貴社でご負担願います。

キャンセルポリシー

開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない
場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。

申込・問合せ

日刊工業新聞社 名古屋支社 イベントG
TEL 052 (931) 6158 (直通) FAX 052 (931) 6159

受講 申込書

5/29 FMEA辞書

お申し込みは

<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>

会社名	フリガナ	業種	
氏名	フリガナ	TEL	
	部署・役職	FAX	
所在地	〒	E-mail	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/>
備考			<input type="checkbox"/> 日本金型工業会正会員 <input type="checkbox"/> 中部プラスチック連合会正会員

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、メールの宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【連絡先】日刊工業新聞社 dbopr03@nikkan.tech
郵送による宛先変更・発送停止をご希望の際は、本紙を封入していた封筒のダイレクトメールの調査欄をご記入の上、本ページ中央部右下に記載の[申込・問合せ]連絡先へFAXにてご連絡ください。

No.247524

開催主旨

大手自動車メーカーを中心に国内製造業では厳格なFMEAや大規模なDR（設計審査）が実施されていますが、ますます増加する社告・リコールに象徴されるように未然防止に役立っていません。そのおもな要因は、FMEAやDRの実施時に重要となる「気づく技術力」が不足しているからで、これでは新規点や変更点、心配点に気づくことができず、設計品質のつくり込みにつながりません。

このような品質問題をなくすFMEAとDRの考え方として注目されているのが「FMEA辞書」です。これは、分野別の設計留意点・故障事例・基盤技術・チェックシートなどの道具を使いやすくまとめたものです。気づく技術力を強くすることで抜けない心配点の抽出を可能とし、重点審議点ごとに実施するDR（PQDR: Perfect Quality DR）を通じて心配点をさらに抽出し、品質トラブルの未然防止につなげることができます。

本講座は、大手自動車部品メーカーで本手法を推進し、「重要品質問題ゼロ件」を達成したエキスパートを講師に迎え、気づく技術力を強くするFMEA辞書のまとめ方と道具としての効果的な使い方、FMEAをチーム活動として展開するPQDRの実施計画および実施方法を解説します。品質問題をなくすFMEAとDRの考え方と進め方を習得し、出図後の設計変更の削減ならびにクレーム率の激減に役立てましょう。

講師

株式会社 ワールドテック 二村 直良 氏

【略歴】 1981年：日本電装(株)入社（現(株)デンソー）車載用冷暖房製品の品質保証業務（市場クレーム）に従事。1992年：北米（ミシガン州）のカーA/C生産拠点に転出。CKD部品の現地調達活動を推進。1997年：帰国後、カーA/C用コンプレッサの初期流動業務のマネジメントを担当。2002年：ドイツに転出。欧州新A/C工場立ち上げ活動に従事。2004年：チェコの欧州新A/C工場に移動し、品質保証責任者として活動。2006年：帰国後は、冷暖房製品、給湯器等の品質保証マネジメントを担当。2017年：(株)デンソーエアクル転籍。品質保証担当 常務取締役。2021年：(株)ワールドテックに参加。品質保証活動を国内外で担当。海外メーカー対応、品質問題対応等の経験豊富。

プログラム

1. 品質問題をなくす設計とFMEA・DRの考え方

- 1-1 FMEA辞書と仕組みの継続的改善による効果
（設計変更の激減、事業部クレーム率の激減、重要品質問題ゼロ件達成など）
- 1-2 開発のステップと品質保証体系
- 1-3 FMEA, DRとは何か
- 1-4 FMEA, DRの現状課題と解決策

2. 過去トラの集め方・まとめ方

- 2-1 設計過去トラの分類方法、まとめ方

3. 設計不具合の反省

- 3-1 品質問題の分析
 - ①なぜ発生したのか？
 - ②なぜ流出したのか？
 - ③品質問題の発生原因と流出原因
- 3-2 心配点に気づくための仕組みづくり
 - ①新規点・変更点・心配点に気づく技術力の養成
 - ②抜けない心配を抽出する道具
 - ③気づきを促進するDRの仕組み
- 3-3 気づく技術力の強化 FMEA作成、DRチーム活動の道具
 - ①気づく能力を強化するFMEA辞書
（分野別の設計留意点/故障事例/基盤技術/チェックのためのチェックシート）
 - ②抜けを防ぐ指摘キーワード集
（心配点（故障モード）キーワード集/ストレス（使用環境など）キーワード集）
 - ③気づきを強化するマクロFMEA作成シート
（Excelのマクロ機能で抜けていた要因、気づかなかった要因に気づき、抜けない心配点を抽出する）
 - ④まとめ

4. 未然防止の活動事例

- 4-1 試作図面のチェック事例
- 4-2 FMEA作成手順とチェック事例
- 4-3 気づきの道具を活用したPQDR（チーム活動）の改善
 - ①実施計画（PQDR計画書の作成/事前準備）
 - ②実施方法
（新規点・変更点の明確化/キーワード集にもとづく心配点の抜けのチェック/心配点の要因の抜けのチェック/レビューのフォロー/司会者注意事項）
 - ③心配点に気づく道具の効果
（キーワード1つひとつで当たると意外と指摘が出る/設計変更件数・クレーム率の激減/新人の早期育成など）

5. 過去トラ集の管理の仕方

6. ソフト面（人、業務管理、ルール）の改善

- 6-1 人材育成の改善事例
- 6-2 マネジメント技術の改善事例
- 6-3 しくみの改善事例
- 6-4 成果

7. 製造工程の事例

- 7-1 過去トラの分類方法、まとめ方
- 7-2 製造の各種不具合事例集
- 7-3 P（工程）-FMEAとチェック事例

8. まとめ

- 8-1 FMEA辞書の作り方
- 8-2 なぜ、この品質改善活動ができたか